

令和5年度の全日制学校評価（結果）

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>ア 「スクールポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、あらゆる教育活動を通し、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>イ 「授業参観週間」「高校生のための学びの基礎診断」「牧高パワーアップアンケート」等の活用と有効的な教科会の運営を通して、誰もが「よりよい授業」を目指す本校の職場文化の維持向上をめざす。</p> <p>ウ 新学習指導要領実施2年目に向け、各教科会での昨年度の振り返りを行いつつ、効果的な実践方法の研究を進めるための校内体制を確立する。</p> <p>エ 今年度を創立100周年イヤーと位置づけ、生徒の活躍の場を増やすとともに、地域への積極的発信に努め、さらに地域への還元に取り組むことによって「残る高校」としての自覚を持ち、「小牧高校の良さ」の継続とさらなる発展を目指す。</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めるだけでなく、「組織の力」を高め、多忙化解消を推進する。また、困ったときに助け合える人間関係づくりに努める。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学習指導 （教務部） （各教科会） （各学年会）</p>	<p>授業に臨む態度の育成 （学校評価アンケートにおける「家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p> <p>学習意欲の向上</p> <p>基礎学力の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備の定着を図る。 ・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 ・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 ・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 ・計画的な確認テストを実施し、生徒の理解度を把握する。 ・欠課過多生徒に対して効果的な学力補充の機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートにおける「家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が「思う」「少し思う」合わせて74%であり、昨年度と同水準であった。特に長期休業後は課題提出指導するなど各学年で工夫を凝らした指導がなされた。 ・学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を心がけ、工夫している」の回答が「思う」「少し思う」合わせて83%と高く評価されている。ICTを利用した授業も増え、一人1台タブレットもわかりやすい授業に貢献した。 ・欠課過多者に対する補充授業の運用を見直し、より効果的な学力補充の機会とすることができた。
	<p>授業力の向上 （学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を心掛け、工夫をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 ・牧高パワーアップアンケートの結果を分析し、授業改善に役立てる。 ・各教科と連携を図り、新教育課程を円滑に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、計4週間にわたる授業参観週間では教員間の情報交換や授業力向上の機会とすることができた。12月には生成AIの利用に関する研修を開催した。 ・中学教員向け公開授業は参観者も少ないため、次年度に向けてこれまでとは異なる研修の場を検討したい。
<p>生徒指導 （生徒指導部） （各学年会）</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>情報モラル・情報リテラシーを高める指</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席の減少を目指す。安易な欠席、遅刻をさせない。 ・5分前行動の定着。 ・遅刻防止週間の設定実施。（学年との連携） ・授業規律の確保や怠学の防止。（適応指導） ・携帯、スマートフォンの校内における使用規 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分前登校強化週間を11月に実施。一定の効果が得られた。 ・遅刻早退数は横ばい状態だが、欠席数は増えている。安易な欠席が減るように保護者連絡を密にとり対策を講じる。。 ・インターネット利用安心安全講話を1年生対象に実施。クラス単位で

項目（担当）	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
	<p>導の充実</p> <p>交通事故防止と交通（社会的）マナーの指導</p>	<p>定を遵守させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関する講話やスマホPC使用ガイドライン7（啓発資料）を活用した指導を行う。 ・情報リテラシーを高める指導として、生徒自らが課題を解決するための情報を収集整理し、それを発信させる指導を行う。 ・登校時の自転車による事故防止教育 ・迷惑行為等のマナー教育 ・「学警連携」地域、警察との連携 ・ヘルメット着用の呼びかけ 	<p>行うことで効果が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホPCガイドラインを提示してスマホの利用について考えるきっかけとなったが、今後もスマホや一人一台タブレットの使用マナーについて啓発が必要である。 ・交通事故件数は少ないが、交通マナーや事故後の処理などについての指導は今度も必要である。交通安全講話は、各学年事の独自作成資料で講話。効果があったといえる ・交通マナーや事故防止の啓発資料も適宜発信した。 ・ヘルメット着用啓発活動を小牧警察署と連携して年3回実施。来年度はさらにヘルメット着用を啓発する。
<p>進路指導 （進路指導部） （各教科会） （各学年会）</p>	<p>3年間を見通した進路指導の推進 （学校評価アンケートにおける「必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望状況・推移を十分に把握し、行事等の企画・運営に生かす。 ・教科・学年と情報を共有し、継続性のある指導を展開する。「学びの基礎診断」や模擬試験を有効活用する。 ・新カリキュラムに対応した大学入試等の変化を注視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望状況を各学期当初に把握し諸施策に生かした。四大進学志望者がますます増加してきている。6年度より始まる新制度入試に向けての適切な対応も必要である。 ・「進路のしおり」や、各種ガイダンス、講演会、説明会によって、適時に的確な進路関連情報を生徒、保護者に提示してきた。さらに充実させていきたい。 ・次年度以降も、状況に応じて適切な指導を継続していきたい。
	<p>生徒の進路希望実現に向けての必要十分なサポートの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。担任が個々の状況を把握する手段として、各種デジタルのサポートの適時の活用を促す。 ・入学試験や就職活動・試験に向けたきめの細かい指導を行う。面接や小論文についても、1年次からプロセスを踏んで指導するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験や入学試験の各種データを教員、生徒、保護者に分かりやすく提供した。 ・進路検討委員会、推薦委員会、担任会等も活用して、進学・就職指導の情報共有や方針の確認を行ってきた。 ・多くの教員の協力の下、補習や模擬試験を適切に運営することができた。 ・学年・教科との連携をさらに深めて、より適切な進路指導、学習指導を進めていきたい。
<p>学校安全・保健 （生徒指導部） （保健厚生部） （総務部） （各教科）</p>	<p>健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る 主体的に健康行動が取れるよう保健教育の充実を図る （学校評価アンケートにおける「生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っている」と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。 ・保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協力のもと、保健講話、薬物乱用防止教室、救急処置講習会を開催し、計画的に保健教育を実施することができた。 ・生徒保健厚生委員会活動を通して、朝食に関するアンケートを実施、外部講師と連携し、朝食の大切さや栄養バランスについて啓発活動を実施することができた。 ・定期的に保健だよりを発行し、健

項目（担当）	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
	思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）		康に関する知識の向上を図った。 ・次年度も学年、分掌、教科、学校三師と連携し保健教育を進めたい。
保護者連携 地域連携 （総務部）	家庭や地域社会との連携を図る （学校評価アンケートにおける「きずなネットによる情報発信」に対する回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 学校のHPの更新を随時行い、情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期保護者会中に学校評価アンケートのQRコードを各クラスに掲示して回答をお願いした結果、回答率が少し高くなった。さらに、きずなネットおよびグーグルアンケート利用について研究と改善に努める。 学校評価アンケートの「きずなネットでの欠席連絡、各種案内の配布等は便利だと思いますか。」という質問に対して肯定的な回答が97%あった。引き続き保護者の理解と協力が得られるように情報発信に努める。
学校行事 （生徒会）	学校祭の充実を図る （学校評価アンケートにおける「生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。 	本年度は感染症予防の制限がなく学校祭を実施することができた。また100周年の記念行事に合わせてキッチンカーや大玉転がしを行うなど、例年とは違う形で開催することができ、重点的目標に掲げた数値は上回ることができた。来年度は本年度の反省からさらに生徒の満足度を向上させたい。
図書館利用 （図書部）	図書館利用の充実を図る （学校評価アンケートにおける「魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> 図書だよりやHPを活用し、図書館行事の紹介や新着図書一覧の作成など情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「映画鑑賞会」や「読書会」等の行事や「本のプレゼンテーション」・「図書委員のおすすめ本」の廊下掲示等、生徒による情報発信も例年並みに行った。加えて百周年を意識した展示も図書委員の力で行うことができたが、図書館利用はあまり伸びなかった。 目標に掲げた数値は上回ることができたが、まだ十分とは言えず来年度も新着図書の充実や広報活動に力を入れたい。
いじめ・不登校 対策委員会	いじめの未然防止に係わる取り組みの充実 いじめの早期発見、適切な事案対処	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「学校生活に関するアンケート」（年2回実施）の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風紀委員会活動として、いじめ 未然防止をテーマにポスターづくりを実施。各学年に掲示した。 アンケートをデジタル化。迅速な状況把握と対応につながった。 不登校の未然防止について、教員のその意識は年々向上している。今年度は現職研修でグループワーク研修を実施。
教職員の健康管理	勤務時間の適正管理 及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の在校時間状況記録の結果の活用 ストレスチェックの結果の有効的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 1月時点で80時間超えの先生は、のべ6名（昨年度同時期10名）であった。在校時間は昨年度に比べ、2～3時間程度の減少がみられる。ストレスを溜め込まない雰囲気作りとも絡め、職員室の風通しを良くしていきたい。
総合評価	<p>在校時間が80時間を超える先生は、年間でのべ6名であり、前年度より減少した。また、ストレスチェックの結果も平均と比べ、良い結果も出ている。少しでも先生方が働きやすい環境を整えたい。牧高パワーアップアンケートは個々の先生による活用はされているが、全体への共有や活用は改善の余地がある。新学習指導要領実施を受けた先生方の授業改善の一環として、研修としても活用できるようにしたい。また、体系的で個々に対応した進路指導の結果、生徒の進学希望に合いつつも、実績としての成果も上がっている。単年度に終わらない継続した進路指導体制を構築したい。併せて、学校安全の立場からも防災や熱中症対策等の更なる推進を図っていく必要がある。</p>		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「スクール・ポリシー」で掲げた「目指す生徒像」を常に念頭に置いた人材の育成 ・誰もが「よりよい授業」を探究する職場文化の維持向上 ・新学習指導要領施行に伴う更なる実践と研究 ・「残る高校」として伝統ある小牧高校の良さの継承と、地域への積極的な発信と還元 ・働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創立100周年で行事が多く予定されていたこともあり、生徒が主体的に行動できるような働きかけが多くなされていたと思う。生徒会部では執行委員会が主体となって、正面玄関前に立て看板を作成したり、横断幕の代わりに100周年を周知する張り紙を作成したり、主体的に校内PRに努めてくれた。校外PRとしては、実行委員会の生徒たちが小牧市や外部団体と連携してボランティア活動や「こまるしえ」の開催を実施してくれた。また、PTAの方もギネスへの挑戦や「こまるしえ」への参加等、様々な行事への参加や支援をしていただいた。PTAと学校・行政・企業が連携して生徒に関わることで「伝統ある小牧高校の生徒」の育成に尽力できたのではないかと考える。 ・新学習指導要領の実施に伴い、実施計画から生徒の主体的な学びを念頭に置いた授業の展開を考えて実施しているところである。年2回の授業参観週間を通して先生方相互のスキルアップは図られていると考えるが、研修を通じた理念や情報の更新が弱いと感じられる。
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年事業が区切りを迎え、101年目が始まるが、今年度多方面でつながれた縁を、どのように継続するのかが課題である。学校が主体となって実施されたものも多いため、今後は生徒と教員が主体となって活動できるかが継続できる鍵である。ボランティア活動など、地域企業や行政は高校生の意見や活動に大変期待を持っており、つながりを求めていることが分かったため、生徒の様々な経験の場を確保するためにも継続の方法を確保する。 ・来年度に向け、校内外の研修を前向きに取り組む雰囲気や考え方を醸成したい。校内研修の予定や内容を精選し、職員研修についても多く活用されるように面談等を通して働きかける。
<p>その他 (学校関係者評価委員から 出された主な意見、要 望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・牧高祭準備期間中16:30以降にエアコンが切れてしまい、暑い中作業をすることになったのだが、エアコン使用規定はどのようになっているのか。 →準備期間中は優先作業時間が決まっているため、作業終了と帰宅を促すため、一度全教室のエアコンを切り、その後は適宜入れることになっている。熱中症対策に気を付けながら来年度以降も適切に運用をしていきたい。 ・全日制、定時制の交流が少ないのが残念である。100周年事業では全定一緒に式典に参加する等の交流があったが、せっかく全定設置の高校であるので、より交流があるとよいと思う。 →機会をとらえて方法を考えたい。 ・全日制業後の部活活動場所について、定時制との連絡がうまくいっていないことがあった。 →できるだけ、コミュニケーションを密にして対応していきたい。 ・夜間中学の設置はあるのか。 →報道発表の通り、設置される。しかし、現段階ではどのような形になるのか、調整中である。
<p>学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員4名、3年PTA役員4名、校長、教頭、事務長 ・評価時期・・・3月下旬

令和5年度の定時制学校評価（結果）

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	<p>ア 「スクール・ポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、あらゆる教育活動をとおり、他者と関わる力を身に付けさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結びつき合う心を育てる。</p> <p>イ お互いの授業に関心を寄せ、教科の枠を超えて積極的に授業を見学し合うなど、「よりよい授業」を探究する職場文化の維持向上を目指す。</p> <p>ウ 教科書採択の討議をはじめ新学習指導要領実施2年目に向け趣旨の理解を深めるとともに、校内研究体制を確立する。</p> <p>エ 高校卒業資格の授与にとどまることなく、キャリア教育計画に基づいた就労支援・進学支援によって、定時制課程に対する地域からの期待に応える。</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めるだけでな</p>		
項目	具体的目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部) (各教科)	多様な生徒への対応と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への対応の充実 外国人生徒対応の一層の充実 基礎学力が不足した生徒への対応の充実 授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> SC、担任、保護者との連絡をこまめに行う。 各教科による個々の能力に応じた指導を工夫する。 授業以外にも学びの機会を提供する等、個々の能力に応じた対応を工夫する。 お互いの授業を参観するなど授業力向上の機会を設定する。
	日本語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定教科を通して生徒の日本語力向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語担当教師、日本語教育支援員との情報交換を密にし、適切な運営計画について検討し、改善をはかる。
	特別活動等「在り方生き方教育」	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間への対応など、具体的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語力の向上だけでなく日本社会で活躍するために、日本の文化や習慣についても学習する機会とする。
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者、早退者への指導の充実 欠課過多者への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 担任を中心とした指導を基本とするが、職員全体での情報共有を行い、全体での指導を心掛ける。 高等学校の出席の重要性について、保護者に十分理解してもらうため、外国人生徒教育支援員を活用する。
	生徒情報の精選と共有	<ul style="list-style-type: none"> 定期的情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 迅速な対応のために、生徒情報や対応の留意点等についての情報交換はこまめに行う。
	交通安全指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話の実施 下校指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話や、HRを活用した交通安全指導を計画する。 立ち番指導等、登下校時の交通安全指導を重点的に計画する。
	学校いじめ防止基本方針に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止講話の充実 早期発見に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 県方針に基づく迅速、組織的な対応を心掛ける。 SNSでのトラブルにも注視する。 アンケート等、生徒からの情報収集に努める。
進路指導 (進路指導部)	キャリア意識の向上及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路行事を活用した働きかけ 進路情報の提供 面接指導の実施 外国籍生徒に対する日本語資格取得奨励 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリア意識向上のために、外部講師による講演に限らず様々な手法で進路行事を企画する。 生徒それぞれのキャリア発達を促す情報提供の具体的方策を検討する。 生徒の実情に応じた面接指導を計画する。 キャリア形成における日本語資格の有用性を認識させ、その取得を奨励、支援する。
保健指導 (保健厚生部)	健康の増進及び相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の円滑な実施と治療勧告 SCの効率的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会を活用して本人及び保護者への健康診断結果を通知する。 生徒が抱える様々な課題に対応するために、SCの効果的な活用方法について検討する。
	環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 節電、省エネを通じた環境意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 自然との共生意識を高められるよう、SCや栄養士を活用する。
教職員の健康管理	健康障害防止の取組	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間の適正管理 年次休暇の取得推進 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働による健康被害防止のために、在校時間等の状況記録を活用して面接指導の有無について確認を行い、健康被害防止に努める。 年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> SCとクラス担任、保護者との連携により、不登校生徒の減少がみられた。心配な生徒への声掛けを継続したことにより、カウンセリング制度が生徒間に浸透し、参加者が増え、適切な対応ができるようになった。 学習支援や授業支援等は、外国人生徒教育支援員制度を活用した生徒にとって大変有意義なものとなった。さらに、有効活用するための環境整備について工夫したい。 授業参観期間を設定し、授業力の向上を図ることができた。 		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習歴をもつ生徒への対応について ・多様な課題を抱える生徒への対応について ・日本語教育を必要とする生徒への対応について
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習ニーズを持つ生徒ひとりひとりへの個別対応に評価を得た。 ・多様な課題を抱える生徒対応について、外部機関と連携しながら対応した。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれのニーズに応じた日本語教育の在り方の工夫。 ・様々な課題を抱える生徒に対応するための外部資源のさらなる有効活用について研究する。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・外部との交流の機会の拡充。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議委員 4名 ・評価時期・・・3月